

団体名：モザンビークのいのちをつなぐ会

2015 年度活動計画書

2015 年 04 月 01 日～2016 年 03 月 31 日

【2015 年度活動の方針】

2 年の月日をかけて建築を続けているスラムの学舎・寺子屋の建築を完了させ、本格的に開かれた学舎として寺子屋を機能させ、寺子屋を舞台にした教育活動に注力していく。2015 年度下半期からは、日本のポン菓子製造機を導入し、5 割を超える栄養失調率の改善もスタート。同時に事務局庭での活動も継続し、スラム 2 地域をベースに当会の教育活動を展開していく。

また、農村地域でのトイレと井戸の設置活動、公衆衛生教育も継続し、農村の人々が自律的に自らの QOL を高めていけるようトレーニングする施設も計画も進めていく。

2012 年から申請をし続けている国際文化交流活動＜アフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアー＞がついに実現するため、2015 年度上半期はその準備と資金調達に注力。本国際交流活動は単なる交流活動ではなく、モザンビーク帰国後もスラムの学舎寺子屋での教育に連動する、地域に生きる人材育成・教育活動となる。

資金面に関しては、前年と同じ状態であり、当会事務局及びスタッフは専属でボランティア活動を行っており、様々な活動を展開するも、副業を作りその収入に依存している。よって、当会の専属スタッフが健康的に生活を維持でき、その上で活動が継続できるよう、資金調達においても人件費を算入できる資金の調達も考慮する。

2015 年度の活動に関しては、毎月日本事務局とモザンビーク事務局にてインターネットを用いたスカイプ会議及び役員会を実施。

【2015 年度の活動計画骨子】

寺子屋での日常的な教育以外は資金調達を行う

＜教育活動＞

スラムの学舎・寺子屋の本格稼働に向けた設備の充実。

- ・ 寺子屋の教育システムの充実（図書、eラーニング）
- ・ 寺子屋での日常的な教育活動

<水と公衆衛生活動>

◇ 井戸とトイレの設置

- ・ クイサンガ地区20村への井戸とトイレの設置 [草の根・人間の安全保障無償資金協力（GGP）]
- ・ トトロ村など特に水環境が劣悪な地域への浄水器の製作・配布
- ・ 水・公衆衛生設備技術トレーニングセンター「SATLIC」建設

<国際交流活動>

- ・ スラムの学舎・寺子屋のカリキュラムに国際交流を加える（eラーニング）資金調達
- ・ マコンデ族の日本招聘及び講演・マコンデ音楽の演奏会・文化講演 実施
- ・ モザンビーク人の日本での技術研修の実施
- ・ 福岡ユース・グローバル・ダイアローグの実施

<食育活動>

- ・ 寺子屋でのボン菓子製造、職業訓練

【2015年度の主な活動の予定】

●教育活動

《スラムの学舎・寺子屋での教育》



《寺子屋へのミニ図書館設置など設備整備》

ペンバには本が全くないためミニ図書館を設置する。多くの子供が活字、色彩に触れ学びの好奇心を助長できるよう活動を行う。これまで自費で本を集めてきたが、数が少ないため、蔵書数を増やす。



現在実施している「英語教室」「音楽教室」でも、図書を活用し、教育を行う。

★楽器の不足（ペンバのアーティストとギター1台をシェアしている）も解決させる。

《寺子屋での e-ラーニング教育、国際交流》

寺子屋でパソコンとインターネットを使い、指導をより効率的かつ充実させていく。“頑張る人がもっと頑張れる”場として、子供のみならず 20 代以上の人たちにも利用してもらえ

るよう働きかける。また、環境問題への知識が皆無に等しいため、日本とモザンビークをつなぎ各国の状況を学び合う国際交流環境教育もインターネットを用いて行う。

●水と公衆衛生活動

《クイサンガ地区への井戸とトイレの設置》

●GGP（草の根・人間の安全保障無償資金協力）



GGP（予算1千万）では、クイサンガ地区20の村にトイレと井戸を設置する。

《浄水器の製作・配布》

●TOTO 水環境基金

既存の浄水器（インド製カートリッジ・タンザニア製のバケツで製作）の在庫が切れたため、早めに資金調達を行う。気候変動の影響で水環境が劣悪な地域が増えており、コレラをはじめとした疾病率が高まっているため村民からの浄水器のニーズがさらに高まっている。

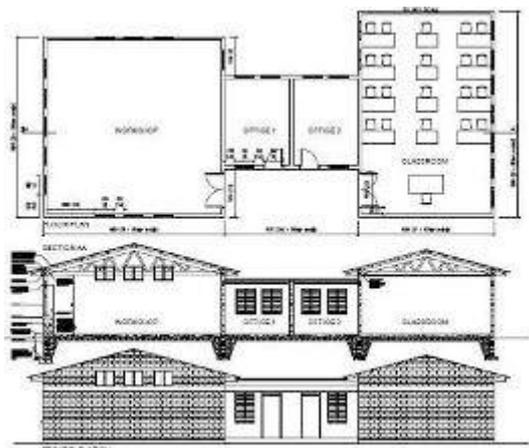


2014年9月に自費で実施した浄水器を使った衛生教育

《公衆衛生設備トレーニングセンター『SATOLIC』建設》

●助成金探し

トイレと井戸の設置に関する技術ノウハウを、NGO や企業・団体に対して行うトレーニングセンター『SATOLIC』の建設のための資金調達。(企画済み)



企画している施設設計図

●国際交流活動

《マコンデ族の音楽や文化を日本で紹介する活動》

アフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアー

●万博基金

彫刻、音楽、ダンスなど多彩な文化を誇るマコンデ族の芸術を日本で紹介する。マコンデ族の音楽家を日本に招待しイベントを開催する。

自費負担200万以上の資金調達を実施。



アフリカ・マコンデ族
日本初！音楽&文化公演
カーネーション音楽協会主催

2015年8月～9月日本最新公演決定！！
 8月下旬 東京→9月上旬 京都→9月下旬 福岡
公演場所大募集！



アフリカを代表する芸術・文化を今に伝えるマコンデ族の人気ミュージシャンの日本初公演がついに実現!!
 東京・京都・福岡と縦断しながら、音楽の生演奏と文化フォーラムを実施します。
 マコンデ族のアイデンティティを伝承する儀式ダンス様式・マビコを日本で披露できるように、段取り中。
 本公演はより多くの人に、アフリカ、モザンビーク、多様な文化に触れていただきたいため、全日入場料無料・投げ銭制を考えています。但し、活動費用の50%以上が自己負担となるため、出稼ぎ公演となりますので、会場ではCDや物品販売も行わせていただきます。皆様のご協力を切に、お願いします。




モザンビークのいのちをつなぐ会
 Bridge for Lives in Mozambique

また、欧州で評価されているマコンデアートが日本では知られていないため、マコンデの文化とマコンデアートを紹介する Web サイトを構築する。(寺子屋の教育と運動)

《第一回福岡ユース・グローバル・ダイアログ》

当会設立以前の福岡での人材育成の経験、東南アジアや欧州での事業経験を生かし海外で活躍する若手起業家を育成するためグローバル思考をトレーニングする『福岡ユース・グローバル・ダイアログ』を企画。福岡の企業と共催。

●食育活動

《ポン菓子製造プロジェクト》

食べ物のバリエーションが少なく、5歳未満の乳幼児死亡率 17%かつ栄養失調の子供が多いスラム地区の食環境を改善するために、日本からポン菓子製造機を輸入し、寺子屋で稼働。働く意識が希薄なスラムの子供たちに対し、職業訓練も同時に行う。



以上